



日本企業による アフリカ・ビジネスを支援

アンゴラでは現在、2002年まで27年間続いた内戦からの復興が進められており、製品の大半を輸入に頼る繊維産業の復興は、アンゴラ政府の重要政策の一つに位置付けられています。こうした中、JBICは8月、アンゴラ政府との間で、融資金額185億円相当及び181億円相当(いずれもJBIC分)を限度とするバイヤーズ・クレジット(輸出

金融)の貸付契約を2件締結しました。

本件は、アンゴラの地質鉱物工業省が実施する、国営紡織工場再建プロジェクトに必要な紡織設備((株)豊田自動織機及び村田機械(株)製等)を丸紅(株)より購入するための資金となります。

2008年の第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)において、日本政府はアフリカ



紡織工場完成予想図

向けに5年間で総額25億米ドルのJBICによる金融支援を発表しました。本件は日本企業の輸出支援を通じてこの枠組みにも寄与するものであり、本融資によりこの発表額に到達することになりました。